

《PET 核医学ワークショップ》

PET 核医学ワークショップ - クリニカル PET 元年

企画：日本核医学会 PET 核医学ワーキンググループ

共催：日本アイソトープ協会

司会 小西 淳二（京大院・核医学 - RI 協会サイクロトロン核医学利用専門委員会委員長）

井戸 達雄（東北大・サイクロ RI - 同上副委員長）

司会の言葉

日本核医学会および日本アイソトープ協会など関連団体の永年の努力により、本年 4 月より FDG-PET が保険適用となった。

この検査は院内製造の FDG を用いるもので、その製造基準、品質管理等については、学会が定めたガイドラインを参考にして行うこととされている。また、「核医学の経験を 3 年以上有する者が行うこと」と定められており、本学会にとっては画期的な表現が盛り込まれたことになる。

このような背景から、これまで以上に本学会が FDG-PET 検査の質の維持に責任を持つことが要請されている。

本ワークショップでは、1)「ガイドライン」の内容・趣旨を会員の皆様にさらに理解していただくことを第一の目的として、さらに 2) 円滑な FDG-PET 検査を行うための必要事項や問題点、3) PET 核医学のさらなる発展のための方向性について、会員の皆様と討論を行うことを目的とする。具体的には、検査の安全性と質を維持する上で重要な PET 放射性薬剤の製造・品質管理に関すること、保険診療適応疾患に関すること、および今後の検討事項・方向性について、3 名の演者から概説があった後、会員との討論を深めたい。

1. PET 放射性薬剤の製造・品質管理について

佐治 英郎

(京大院・薬学 PET 核医学委員会委員)

¹⁸F-DG-PET 検査の保険適用にあたって指示されている「¹⁸F-DG 製剤の製造に係る衛生管理、品質管理等に関する体制の整備」に関して、日本核医学会および日本アイソトープ協会が示している、¹⁸F-DG の院内製造に係る衛生管理、品質管理等についての基準の概要、およびそれに基づく ¹⁸F-DG の品質と安全性の確保について解説する。

2. FDG-PET 保険診療の要件および保険診療適応疾患

福田 寛

(東北大・加齢研 PET 核医学委員会委員長)

今回、保険適用となった FDG-PET 検査の適応疾患は、てんかんの焦点検出、心筋のバイアビリティの判定、肺癌ほか 10 種のがんの 12 疾患である。

また、今回の保険採用にあたって「核医学の経験を 3 年以上有する者が行うこと」などのいくつかの要件が定められている。これらについて解説するとともに、RI 協会と学会の合同ワーキンググループで検討を行っている保険適応拡大のための取り組みについても紹介する。

3. 臨床 PET 推進会議の設立について (特別発言)

鳥塚 莞爾

(RI 協会 FDG-PET ワーキンググループ主査)

本邦における PET の臨床応用の普及，推進を図るため，日本核医学会，日本アイソトープ協会，PET 関連の全企業で構成する，臨床 PET 推進会議

の設立を準備している．本会議は，本邦における臨床 PET の円滑な推進を図り，厚生労働省および関係機関に要望などを行う．

4. 総合討論